

第15回 共同主催 公開講演会

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
福井県立病院

がんに打ち克つために ～最新の陽子線治療を知ろう～

講演会ガイド



日 時 平成30年12月22日(土)
13:00～16:10 (受付開始 12:30～)

場 所 福井フェニックスプラザ
小ホール (定員300名)

主催 公益財団法人医用原子力技術研究振興財団 福井県立病院

後援 文部科学省 厚生労働省 公益財団法人日本対がん協会
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所 公益財団法人日本放射線腫瘍学会

開催趣意書

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団は、加速器等から発生する粒子線等により先端的がん治療をはじめとする各種放射線による疾病の治療ならびに診断等、放射線利用技術の研究を推進するとともに、その普及を図ることにより、科学技術の振興を図り、もって人類の福祉向上に寄与することを目的として、各種事業を展開いたしております。

放射線利用技術は、今や国民生活にとって欠かせない重要な役割を果たしており、がん医療をはじめとする医療分野に深く浸透しています。とりわけがんに対する放射線治療は、機能と形態を温存し、高いQOL（生活の質）を維持し治療できる長所をもっており、他の治療法と比較して、患者に優しく、年齢に関係なく治癒を目指せる優れた治療法といえます。ところが、わが国では、放射線医療に関する正確な情報が一般の方々へ十分伝わっていないという側面があり、残念ながらその真価が正当に評価されていないことが多いのが実情であります。

このため、当財団では、「人にやさしいがんの放射線治療」をテーマとして、放射線利用技術が診断・治療等のさまざまな医療の現場で活用され、役立っていることを、広くわかりやすく一般の方々へ紹介し、国民生活に身近で、貢献度の高いものであることを理解いただくことを内容とする「医用原子力技術研究振興財団講演会」を毎年各地で開催しております。

今回は、平成30年12月22日（土）に福井県で福井県立病院と共同で開催します。本講演会では、粒子線治療の中でも、福井県立病院 陽子線がん治療センターで行われています陽子線治療の詳しい内容をご紹介させていただくとともに、併せて粒子線治療の現状と今後の動向について広く知っていただく機会にしたいと考えております。さらに、「人はがんとどう向き合うか？」というテーマにつきまして患者自身や家族、周りの方々が抱えている悩みや社会全体が直面している課題、およびその対策、取り組みなどをお話しいたします。

この講演会を通じて、放射線医療への関心を高め、理解を深めていただくとともに、患者自らががんをよく知り、恐れず積極的に向き合う環境づくりを進める一助になることを目指すとともに、福井県立病院が福井県のみならず、広く北陸地域のがん治療の拠点として、体にやさしい陽子線治療を実施することで地域全体の福祉の向上につながることを期待しております。

主催 公益財団法人医用原子力技術研究振興財団 福井県立病院
後援 文部科学省 厚生労働省 公益財団法人日本対がん協会
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所
公益財団法人日本放射線腫瘍学会

プログラム

第15回 共同主催 公開講演会
「公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団」
「福井県立病院」

がんに打ち克つために ～最新の陽子線治療を知ろう～

開催日程 平成30年12月22日(土) 13:00～16:10

開催場所 福井フェニックス・プラザ 福井県福井市田原1-13-6

13:00～13:05	開会挨拶	公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 副理事長	辻井 博彦
13:05～13:10	来賓挨拶	福井県知事	西川 一誠

【第1部】

13:10～13:40 講演1 「福井県立病院における陽子線治療の取組み」
【30分】
福井県立病院 陽子線がん治療センター
センター長 玉村 裕保 先生

13:40～14:30 講演2 「粒子線治療の現状と今後の動向について」
【50分】
筑波大学 医学医療系 放射線腫瘍学 教授
筑波大学附属病院 陽子線治療センター部長 櫻井 英幸 先生

14:30～14:40 休憩 (10分間)

【第2部】

14:40～16:10 特別講演 「人はがんとどう向き合うか？」
【90分】
公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団 理事長
公益財団法人 日本対がん協会 会長 垣添 忠生 先生



さかい ちよみ。

クロスシーズン
代表

さかい ちよみ。 (さかい ちよみ)

略 歴 : フリーアナウンサー
NHK 福井放送局を経て26年間現役で
テレビ・ラジオ・式典やイベント司会などで活動中！
現在、FBCラジオ「午後はとことんよろず屋ラジオ」パーソナリティー
福井テレビ「福井県広報番組ほっとふくい」レポーター
福井新聞社「女性のつどい ささらサロン」専属司会
コミュニティーFM福井街角放送パーソナリティー
昨年10月 著書「ことばの温度」を出版
話し方・コミュニケーション等の教室、講演なども手掛ける



辻井 博彦

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
副理事長

辻井 博彦 (つじい ひろひこ)

現 職 : 量研機構・放射線医学総合研究所病院・国際治療研究センター長
神奈川県立がんセンター・重粒子線治療センター長

略 歴 : 1968年 北海道大学医学部卒業
1969年 国立札幌病院放射線科
1972年 ニューヨーク市 St Vincent Hospital レジデント
1974年 北海道大学医学部放射線科
在職中に米国とスイスで各1年間パイ中間子治療プロジェクトに参加
1989年 筑波大学臨床医学系教授・陽子線医学利用研究センター長
1994年 放射線医学総合研究所・重粒子線治療センター病院長
2008年 同理事
2016年 神奈川県立がんセンター・現職
2018年 量研機構・現職



「福井県立病院における
陽子線治療の取組み」

玉村 裕保

福井県立病院
陽子線がん治療センター センター長

玉村 裕保 (たまむら ひろやす)

略 歴： 昭和 58 年 金沢医科大学 放射線科入局（研修医）
昭和 60 年 福井県立病院 放射線科 副医長
昭和 61 年 金沢医科大学 放射線科 助手
平成 2 年 浅ノ川総合病院 放射線科 医長
平成 7 年 金沢医科大学 放射線科 講師
平成 11 年 福井県立病院 放射線科 医長
平成 16 年 福井県立病院 核医学科 主任医長
平成 28 年 福井県立病院 陽子線がん治療センター長

日本医学放射線学会 放射線治療専門医 / 指導医

日本放射線腫瘍学会 認定医

日本核医学会 PET 認定医

日本がん治療認定機構 がん治療認定医

賞： ・ ECR' 99 Scientific Exhibition Award CUM LAUDE 受賞
・ 日本放射線腫瘍学会第 27 回学術大会 優秀口演賞
その他



「粒子線治療の現状と
今後の動向について」

櫻井 英幸

筑波大学医学医療系 放射線腫瘍学教授
筑波大学附属病院 陽子線治療センター部長

櫻井 英幸 (さくらい ひでゆき)

略 歴 : 1988年 3月 群馬大学医学部 卒業
1991年 4月 群馬大学医学部 放射線医学教室 助手
1992年 4月 英国ケンブリッジ大学 リサーチフェロー (1年間)
1993年 4月 群馬大学医学部 放射線医学教室 助手
1997年 4月 群馬大学医学部 院内講師
2001年 4月 群馬大学大学院 医学系研究科講師
2006年 4月 群馬大学大学院 医学系研究科助教授
2007年 4月 群馬大学大学院 医学系研究科准教授
2008年 7月 筑波大学大学院 人間総合科学研究科教授
2008年11月 筑波大学 陽子線医学利用研究センター長
2014年 4月 筑波大学附属病院 陽子線治療センター部長
現在にいたる

受賞など : 日本放射線腫瘍学会 学会賞 (梅垣賞)
国際癌治療増感研究協会 協会賞
日本ハイパーサーミア学会 阿部賞

資格・免許 : 日本医学放射線学会専門医
日本放射線腫瘍学会認定医
日本ハイパーサーミア学会指導医
日本がん治療認定医機構認定医
医学博士 (群馬大学)



「人はがんと どう向き合うか？」

垣添 忠生

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
理事長
公益財団法人 日本対がん協会 会長

垣添 忠生 (かきぞえ ただお)

生年月日： 昭和 16 年 4 月 10 日

出生地： 大阪

略 歴： 1967 年東京大学医学部医学科卒業。同年東京大学附属病院で研修し、都立豊島病院、医療法人藤間病院外科に勤務後、1972 年東京大学医学部泌尿器科文部教官助手。この頃から膀胱がんの基礎研究に携わり、大学の勤務終了後、夜国立がんセンター研究所に通って研究を続ける。1975 年国立がんセンター病院泌尿器科に勤務し、1987 年同病院手術部長、第一病棟部長、副院長を経て、1992 年 1 月に病院長、同年 7 月に中央病院長、2002 年 4 月総長に就任し、2007 年 4 月国立がんセンターを退職し、同名誉総長、財団法人日本対がん協会会長に就任。専門は泌尿器科学だが、発がん全般、特に膀胱発がん、前立腺発がんについては今も強い関心をもっている。立場上、がんの診断、治療、予防に幅広く関わり、全がんに目配りしてきた。がん予防、がん検診、緩和医療に対する関心も強い。国立がんセンター田宮賞、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞、瑞宝重光章などを受賞。

主な著書： 発がんからみた膀胱がんの臨床（メディカル・ビュー社）、がんと人間（共著 岩波新書）、患者さんと家族のためのがんの最新医療（岩波書店）、前立腺がんで死なないために（中央公論社）、妻を看取る日（新潮社）、悲しみの中にあるあなたへの処方箋（新潮社）、がんと人生（中央公論新社）、巡礼日記 - 亡き妻と歩いた 600 キロ（中央公論新社）など。

第15回 共同主催 公開講演会
公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
福井県立病院

ご協力ありがとうございます。

本講演会の開催に際しまして、ご協賛をいただきました。
厚く御礼申し上げます。

(敬称略)

協賛団体

アフラック生命保険 株式会社 福井支社
大阪重粒子線施設管理 株式会社

広告協賛団体

株式会社 日立製作所
東芝エネルギーシステムズ 株式会社
住友重機械工業 株式会社

HITACHI
Inspire the Next



PARTICLE BEAM THERAPY SYSTEM

**Innovating Healthcare,
Embracing the Future**

 **Hitachi, Ltd.**
www.hitachi.com/healthcare

TOSHIBA

Energy for Sustainable Life

あたりまえの日常を支える、技術と情熱。



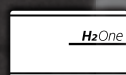
火力



原子力



再生可能
エネルギー



水素



電力流通



粒子線
治療装置

東芝エネルギーシステムズ株式会社

<https://www.toshiba-energy.com>



Accelerate
for the Future



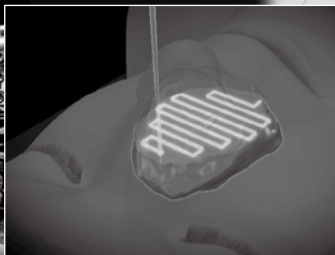
Proto■Therapy System

陽子線治療システム

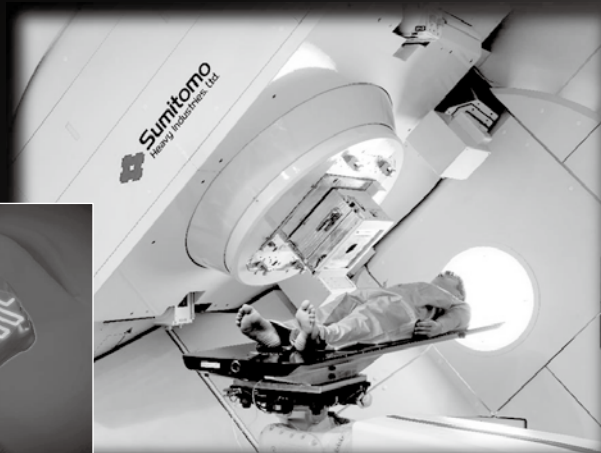
医療機器製造販売承認番号: 21300BZZ00130000



230 MeVサイクロトロン



ラインスキャンニング法



相澤病院陽子線治療センター様

Sumitomo Heavy Industries, Ltd.

住友重機械工業株式会社 産業機器事業部
(本社) 東京都品川区大崎2-1-1 ThinkPark Tower
(TEL: 03-6737-2566)
(関西支社) 大阪市北区中之島2-3-33
(TEL 06-7635-3629)





黄色い葉は痛くない、切らない、簡単な3つを表しています。
緑の葉はやさしい治療を表しています。
「Quality of Life」というコピーは、
放射線治療がQOL（Quality of Life）の向上に大きく寄与し、
がん治療の新しい時代を切り拓いて行くという決意を表しています。



公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団

〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町7-16
ニッケイビル5階

TEL:03-5645-2230 FAX:03-3660-0200
<http://www.antm.or.jp>

詳しい情報はホームページに掲載いたしますのでご覧ください。

無断複写・複製を禁止します。複写を希望される方は、上記財団までご連絡ください。



福井県立病院 陽子線がん治療センター

〒910-8526
福井県福井市四ツ井2丁目8-1

TEL:0776-57-2981 FAX:0776-57-2987
<http://fph.pref.fukui.lg.jp/yosisen/>

詳しい情報はホームページに掲載いたしますのでご覧ください。